

いちばん身近な文芸誌

編集・発行

日本民主主義文学会

TEL 03-5940-6335

FAX 03-5940-6339

メール info@minsyubungaku.org

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 -202

民主文学

11

月号から新連載スタート

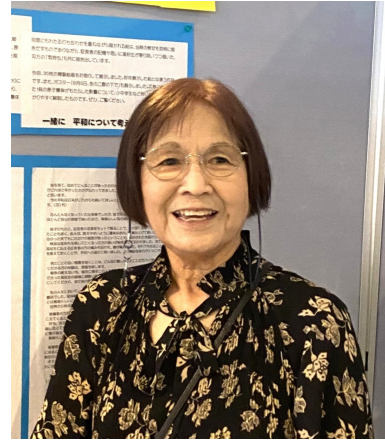
この機会に『民主文学』をぜひご購入ください。

民主文学10



1944年群馬県生まれ。看護師42年。1985年「終焉の看とり」が支部誌同人誌推薦作入選（『民主文学』12月号）。短編集『孤独のかたち』（光陽出版2011年7月所収）、「家守」（『流域』32号、2023年8月）、「文芸埼玉」第111号、第55回埼玉文芸賞準賞として所収（2024年）、「佐伯頼子のコロナクライシス」（『女性のひろば』2024年7月〜25年6月）。

塚原 理恵（つかはら りえ）
本名 瀬戸井利江子



私にとっての看護と文学

“人間らしく生きるとは”を追い求めた軌跡

作者の言葉

私は中卒で働きながら准看護師の資格をとり、定時制高校卒業後、結婚、出産、その後看護学校に進学し看護師の資格をとりました。それから四十年余、看護師として働き、三人の子育てをし、家族を看取りました。退職後には先輩のシベリア抑留体験を取材し小説を書きました。それを契機に平和の大切さを語る活動を始めました。人間らしく生きるとは、を追い求めた看護と文学の軌跡をたどります。

NHK連続テレビ小説「風、薫る」の主人公は「明治のナイチンゲール」と称され日本の看護の礎を築きました。看護は、「病ではなく人を観る」のだ、「医師の手伝い」ではない、という台詞に私ははっとさせられました。看護の道を歩み始めた私は、ひたすら医師の指示に従うのみでした。七十年も経っていたというのに、何ということでしょう。

ドラマの世界から百四十年後のいま、看護の精神はしっかり根付いているでしょうか。コロナ禍で、「医療には余裕が必要」と誰もが認めたはずなのに、病院や病床数の削減が進み、医師も看護師も不足したままです。私の個人的な体験が医療や看護について考えるきっかけになればいいと思います。

★下の用紙にご記入され、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接ご自宅にお送りします。

購読申込書

申し込み

月 日

民主文学購読費 月額1000円(送料込み)

FAX番号 03 (5940) 6339

いずれかに○印をつけてください。

() 11月号より定期購読する。

() 「私にとっての看護と文学」

連載中のみ定期購読する。

お名前

ご住所 〒

電話番号